

2017 年度前期 学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—全学共通教育—

共通教育研究センター長 相澤正彦

全学共通教育科目の前期開講科目のうち、アンケート対象科目は 157 科目であり、このうち 8 科目をのぞく 149 科目についてアンケートが実施されました（実施率 94.9%）。内訳は実施必須科目では 106 科目中、実施された科目は 103 科目（97.2%）、任意科目では 51 科目中、実施されたのは 46 科目でした（90.2%）。協力を頂いた学部生のみなさんは延べ 7,086 名にのぼりました。この場を借りて御礼申し上げます。またアンケートの実施に対し、貴重な授業時間を割いてご協力頂いた先生方にも深く感謝いたします。

周知のように個別科目の集計結果は Campus Square から自由に閲覧することが可能です。おおいに利用していただきたいと思います。さて、授業の満足度を示す「総合的にこの授業を評価できる」の平均は、5 段階評価で 4.30 であり、大学全体 4.36 よりもやや下回りますが、全学の講義科目の 4.28 を上回り平均ぐらいの水準にあるといえましょう。12 の項目の中で 11 項目が 4.0 以上の高い評価を得ています。

個別項目と「総合的にこの授業を評価できる」との相関でみると、例年、相関係数がトップの位置にある「この分野の関心と学力が得られた」は 0.78 という高い数値を示しています。これは前年度後期アンケートを幾分下回りますが、4 学部の数値と比較して若干上回るか、もしくは同等であり、各授業の充実度を示すものと言えます。またこのことは「授業への教員の熱意を感じた」が 0.66 という前回と同数値の高い数値を示していることとも同調するものと思われ、教員のみなさんの不断のご努力によるものと、重ねて謝意を表する次第です。

さて全学共通教育科目においても、アクティブラーニングの促進を連年、奨励しておりますが、前年度後期には 4.0 に届かなかった唯一の項目が、「教員は発言・議論等の授業参加を促した」の 3.67 であり、努力課題でありましたが、今回は前者は 3.53 と少し下降しました。一方で、前年度後期は学生の「予習または復習をよくした」が 3.21 とやや上向きになっていましたが、今回は 3.10 とやや後退してしまいました。これからも注視していきたい課題となっています。

スポーツ・ウェルネス実技科目については、「総合的にこの授業を評価できる」が前年度後期は 4.88 と連年と同じく極めて高い数値を示しておりましたが、今回は 4.81 と前年度後期を下まわりましたが、高い数値を維持しているといえましょう。また「運動量は十分であった」の数値が前年度後期 4.79 に比べ今回は 4.81 と上回り、「体の健康等を見直す機会になった」が前年度後期 4.80 に比べ今回は 4.77 と下降しましたが、いずれも高い数値を維持しています。ここには学生におけるスポーツ・ウェルネス関係の関心の高まりと教員みなさんの熱意がうかがわれます。

全学共通教育科目は、教養科目、外国語科目、スポーツ・ウェルネス科目、IT 科目、WRD 科目、データサイエンス科目という構成からなり、基本的な学問体系を学べるよう、また今日的な諸問題に取り組むことができる教養や知力、スキルを習得できるよう、多岐にわたる科目が配されています。このアンケートを通じ、今後も質の高い授業を学生のみなさんに提供していこうと考えています。